

氏名(本籍地) 藤原 治(大阪府)
学位記および番号 歯学博士, 乙 第250号
学位授与の日付 平成19年3月9日
学位論文題名 「エンドモーターテクニカヴィジョンを用いた根管形成と根管充填の封鎖性に関する研究」
論文審査委員 (主査) 横瀬敏志教授
(副査) 鈴木康生教授
佐藤 純准教授
佐々木重夫准教授

論文の内容および審査の要旨

歯内療法処置の最終治療は根管充填であり, その予後は根管形成に深く関連している。また, 根管形成処置には多大の労力と時間を必要とし, それらは根管の湾曲程度によっても影響を受ける。根管形成には手用ファイルなどが用いられるのが一般的であるが, 能率化を図るために種々の根管形成用特殊コントラハンドピースが考案されている。

本研究では特殊コントラハンドピースの1種であるエンドモーターテクニカヴィジョンの有用性を見出す目的で湾曲度の異なる透明根管に根管形成を施し, 根管形成に要した時間, 根管形成後の根管形態について手用ファイルと比較した。また, エンドモーターテクニカヴィジョンで形成した根管に対して専用のガッタパーチャポイントならびに専用以外のガッタパーチャポイントと2種類を使用して根管充填を行った後, 色素浸入試験を行うことによって根尖の閉鎖性についても検討した。

その結果, 1. エンドモーターテクニカヴィジョンによる根管形成はすべての根管湾曲度において手用ファイルに比較し, 短時間に行うことが可能であった。2. 湾曲度が大きくなるにつれて手用ファイルでは形成時間が長くなる傾向にあったが, エンドモーターテクニカヴィジョンは根管の湾曲度に影響を受けることのない, 同様な形成時間での根管形成が可能であった。3. エンドモーターテクニカヴィジョンでの根管形成は手用ファイルに比較してわずかに太い根管形態を呈していた。4. 根管充填を行ったすべての試料において

アピカルシート部を越えての色素の浸入は認められず, 専用のガッタパーチャポイントを用いなくとも根尖部の封鎖性は良好であった。以上の結果から, エンドモーターテクニカヴィジョンは有用性が高い根管形成器具であることが示唆された。

本論文に対する一次審査は平成19年1月17日に行われた。初めに申請者から研究の経緯と内容について説明があった。副査の委員からは, 手用ファイルとエンドモーターテクニカヴィジョンにおける1. 根管湾曲度と形成時間の関連, 2. 根管形成後の根管形態の差異, エンドモーターテクニカヴィジョンを用いて根管形成後に根管充填された試料における3. 色素浸入計測部位の確認についてなどの質問があり, 申請者から適切な回答が得られるとともに主査からも補足説明がなされた。

また, 論文内容については, 1. 申請者自身による実験の追加, 2. 試料写真の鮮明化, 3. 方法の模式図追加による明瞭化, 4. 形成時間における有意検定の再考などの指摘・助言があった。後日, これらの指摘・助言に対する訂正, 追加が確認された。なお, 審査日当日に語学試験が行われ, 合格と認められた。

本研究は根管形成器具を用いての根管形成を行うにあたり, その有用点を明らかにした点に臨床的意義が認められ, 十分学位授与に値するものと判定した。また, 語学試験を行った結果, 英語の読解能力も十分と判断し, 合格とした。

掲載雑誌

奥羽大学歯学誌 第35巻, 1号 35~43